

とくしゅう 特集

東京2020オリンピック出場 永原和可那選手 帰町報告会

永原和可那さん(25)

芽室町出身のバドミントンプレイヤー
現在は北都銀行(秋田県)に所属。世界バドミントン選手権大会2018、2019年を連覇し、この夏、東京2020オリンピックバドミントン競技に女子ダブルスで出場。初出場でベスト8の成績を残す



対談では司会としてFM JAGAのDJ栗谷昌宏さん、ゲストには2010年の冬季オリンピックでスピードスケート日本代表の土井慎悟さん(右)にご出席いただきました



小学生時代のダブルスペア、青木佑真さんから花束が贈呈されました



対談後は参加者からの質問タイム。皆さん真剣な表情で聞き入っていました

夢と感動を、

ありがとう

8月13日(金曜日)、芽室町総合体育館で永原選手の帰町報告会が開催されました。

芽室町出身選手として初めて夏のオリンピックに出場し、決勝トーナメントに進出。準々決勝で惜しくもやぶれベスト8となりましたが、苦しい状況でもあきらめない姿に多くの町民が心を打たれました。

当日は前半に帰町報告会、後半にバドミントンクリニックが行われました。

報告会では手島町長や2010年冬季バンクーバーオリンピックに出場した土井慎悟さんとの対談、参加者からの質問タイムが設けられ、バドミントンクリニックでは永原選手自ら実践披露をしていただきました。

永原選手の

挑戦は続く

今回のオリンピックについて「あつという間でした。試合では、やれることを出し切れたと思う」と振り返る永原選手。

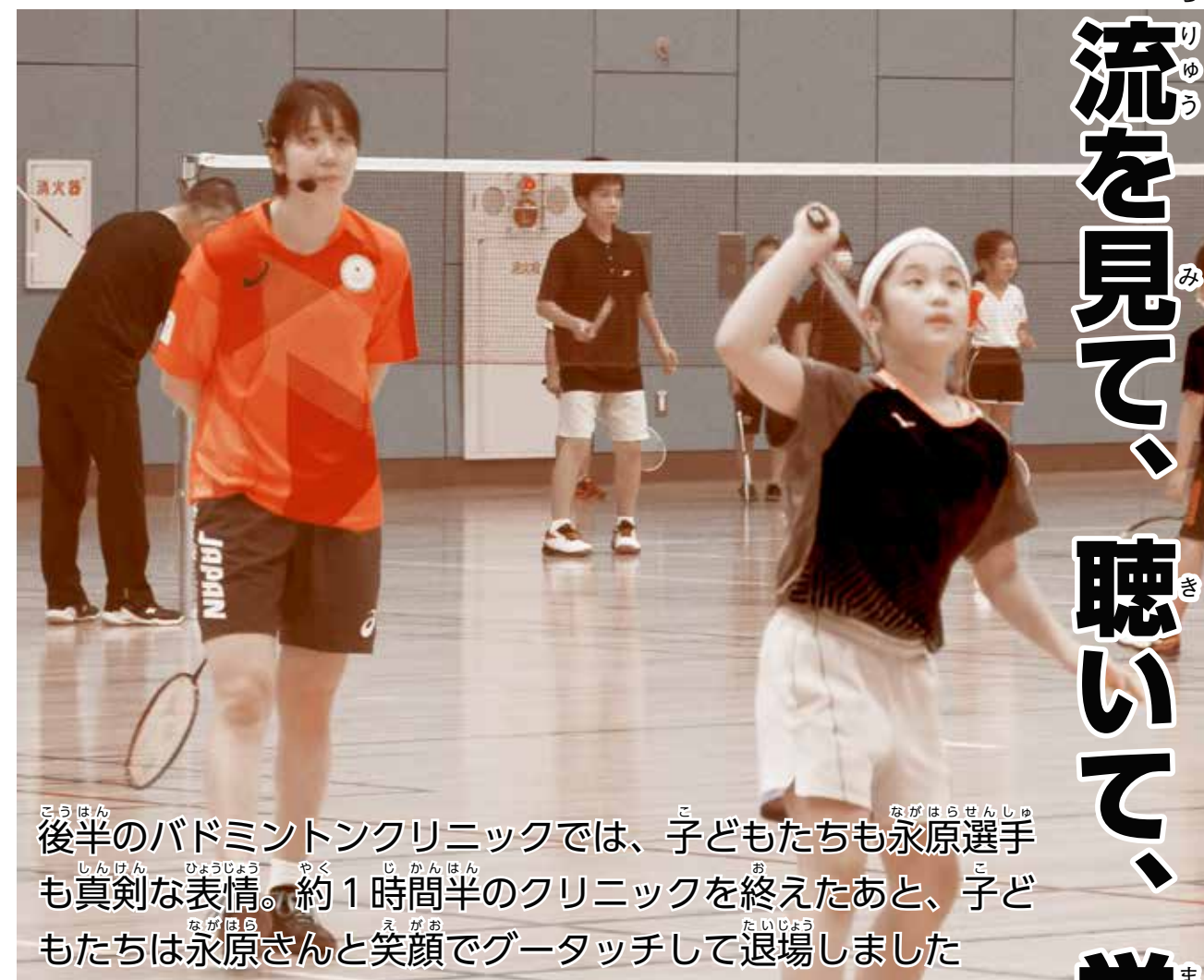
高校3年生のときに2020年オリンピックの東京開催が決定し、そのときからオリンピックを意識したとのこと。

コロナ禍により開催が1年延期となり「こんなにもバドミントンをしていない日は今までなかった。競技へのモチベーションを保つのが難しかったけど、自分を見つめなおすきっかけになった」と語ります。

今後について「バドミントンを続けていくので、応援してください」とコメント。

永原選手の挑戦はまだ続きます！

一流を見て、聴いて、学ぶ



後半のバドミントンクリニックでは、子どもたちも永原選手も真剣な表情。約1時間半のクリニックを終えたあと、子どもたちは永原さんと笑顔でグータッチして退場しました



参加者コメント



林 華乃葉さん 小川 紗綺さん

永原選手との対戦はいつも試合よりもとても強い圧力を感じた。
私も永原選手のようになりたい！
（小川さん）



金曾 莉菜さん 小笠原 りこさん

永原選手は打ち方がとてもきれいだった。永原選手のフォームをイメージしながら私もそんな打ち方ができるようにしたい！
（小笠原さん）

（金曾さん）

永原選手Q&A

子どもたちからの質問やメディアの囲み取材で出た質問・回答を一部ご紹介します。



試合前にしていることはありますか



入場前に靴紐を結び直しています

心身ともに良い状態で試合に臨むため、靴紐はきつめに結び直しています。



子どもたちに何かメッセージはありますか



夢をもってもらいたいと思います

「自分も小学生のころは何か夢を持っているわけではなかったけど、夢を持つことで、今すべきことが見えてくる」と力強く語ります。



バドミントンの魅力は？



『誰でもプレーできる』ことです！

バドミントンの魅力は『小さい子どもから年配の方までプレーできること』だそう。「かけひきで勝負が決まるので、見ていても楽しい」と笑顔でコメントされていました。

永原選手からのメッセージ

オリンピックではたくさんのご声援をいただき、本当にありがとうございました。

目標とする結果で終わることができず、悔しい気持ちでいっぱいですが、オリンピックの舞台に立てた時間は本当に幸せでした。

また違う形で皆さんに恩返しができるよう、今後も頑張っていきたいと思っておりますので、これからも応援よろしくお願ひします。

なが はら わ か な
永原 和可那

特別版
まちのうごき

令和3年第72回

芽室町成人式

第72回芽室町成人式が8月14日(土曜日)芽室駅前プラザ(めむろーど)で開催されました。コロナ禍で1月の開催から延期していましたが、感染対策を実施した上で開催し、92人の新成人が参加しました。参加された新成人の皆さんは、なかなか同年代が集まる機会が少ない中、久しぶりに会う友人らとの短いひとときを楽しみ、会場はマスク越しの笑顔であふれていました。式典では、町長挨拶の後、新成人を代表して、芽室町民憲章の朗読を尾崎愛実さんは、私たちの誓いを荒井僚太さんと中山綾乃さんのお二人が務め、成人としての自覚や責任を述べました。

今回は、新型コロナウイルスの感染対策として、検温・手指消毒と併せ、参加者に直近10日間の健康観察シートの提出を求めました。さらに、保護者や来賓の参加を見合わせたことから、代わりに恩師の先生方と動画を作成し、上映しました。

また、東京2020オリンピックに初出場した芽室町出身の永原和可那選手がサプライズで登場し、激励の言葉をいただきました。大人としての決意を抱き、困難な世の中を切り拓く新成人の皆さんに心からお祝いを申し上げます。



集合写真時のみマスクをはずし、スマイルをいただきました。

あつまれ! 18, 198人!

まちのうごき

8月17・18日 体力測定会 ~まずは自分を知ろう~



65歳以上のシニアの方々を対象に、いつまでも元気で過ごす健康の第一歩として、体力測定会が行われました。若いうちから身体機能の低下を予防し、5年後、10年後...そして「人生100年時代を元気に!」を目標に、まずは自分の今を知るところからはじまります。

2日間で65歳から89歳までの104人の皆さんがそれぞれ割り当てられた時間に集合し、10m全力歩行や握力測定、あたまの元気度テストなどの測定を行っていました。

まっすぐ伸びた背筋、笑顔で励ましあうシニアの皆さん。ぜひとも見習いたいものです。

8月24日 『全匙プロジェクト』による酪農漫画の寄贈



北海道内の農業者や学生が主体のチーム『全匙プロジェクト』より、芽室町内の小中学校に酪農漫画を寄贈いただきました。このプロジェクトは「子どもたちが農業や酪農に興味を持つきっかけを作りたい」との思いから、各地の学校に酪農漫画を寄贈しています。

当日は事業連携先である JA めむろの青年部の川瀬良介部長より教育長に本が手渡されました。川瀬部長からは「漫画を通じて農業について知ってもらえたら」と期待を込めたコメントをいただきました。

撮影時のみマスクを外していただきました。

みんなのひろば

8月5日 全国の舞台へ 気合い十分



この夏、全国中学校体育大会に出場予定の芽室中学校の生徒が教育長室を訪問し、教育長に出場報告を行いました。今回は女子ソフトテニス、陸上競技、ソフトボール(帯広市内の学校との合同チーム)の3つの部が全国大会に出場予定です。

コロナ禍により十分な練習のできない期間もありましたが「全国の舞台でベストを尽くします」と意気込みを語りました。

8月19日 全道大会に向け、期待大!



第66回北海道吹奏楽コンクールに出場予定の芽室中学校吹奏楽部が教育長に出場報告を行いました。8月1日に行われた帯広地区予選では、中学校 A 編成の部で見事金賞を受賞。芽室中学校吹奏楽部が全道大会に出場するのは、これで10大会連続となりました。

大会出場にあたり、部長の小枝さんは「地区大会の反省を活かして頑張りたい」とコメント。程野教育長からは「ぜひ全国大会を目指して頑張ってください」とエールが送られました。